

山頭火遊歩道



種田山頭火

酒と、行乞と、句作の
日々を送った、放浪の俳
人・種田山頭火。
社会の周縁部をさすら
う中から生まれでた自由
律俳句や、その境涯その
ものが、なぜに人びとの
一番敏感な部分を刺激し
て止まないのだろうか。

山頭火を読むより



種田山頭火(1882~1940)は、
山口県防府市に生まれる。早稲田大学中退
後、萩原井泉水に師事、俳誌「層雲」に句
を投じ、同年、出家する。西日本を中心に
乞放浪の旅を続け、句を詠み、句集「鉢の
子」「草木塔」「山行水行」などにまとめ
る。最期を向かえるまで旅を続け、愛媛県
松山市「一草庵」にて往生を遂げる。この
田川には、心友である俳人、木村緑平を尋
ね幾度も訪れている。

山頭火遊歩道



香春八景 (御殿橋)



湯山鉱泉 昭和4年頃「御大典記念田川大観」

昭和五年二月十日
木村緑平らと共に湯山温泉へ向かう。
一浴のあと、鯉コクで一杯やって河内王陵を押し、高
座石寺の梅を見て夕月のある道を帰る。

昭和五年二月十六日
④ 香春をまともにも乞ひ歩く

昭和五年十一月二十八日
叟、近郊深勝、行程三里、香春町
八時緑平居を出て、伊田から橋を渡って香春へ向っ
てゆく。

十一時には香春の町へ着いた。久振に蕎麦を食べ、高
座寺へ詣る。石寺とよばれているだけに、附近には岩
石が多い、梅も多い、清閑を楽しむには持って来いの
場所だ。

香春で宿をとる。裏には小川流るる。
⑤ すくひあげられて小魚かぶやく
⑥ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
③ 彷彿するほがらか
⑦ 鳴きかわしては寄りそふ家鴨
⑧ 枯木かこんで津波路の花
② みすばらしい影とおもふに木の葉ふる (白囀)

昭和五年十一月二十九日
⑥ 香春見あげては嵐とつてある

昭和五年十一月三十日
⑨ ふりかへれば香春があつた

昭和七年五月一日
① 香春晴れさまへ鳥がとぶ
⑤ 香春へ日が出る雀の子みんな東に向く
⑩ あるけばきんぼうげ すわればきんぼうげ (木村緑平)

昭和八年六月十日
わかれきて峠となればふりかえり
登りつめてトンネルの風(仲哀洞道)

— 山頭火日記より (二部変更) —

問合せ 香春町町民センター内(生涯学習課)
☎ 0947-32-8410
〒822-1403 田川郡香春町大字高野987-1

※表紙の写真は、大正初年頃の香春町(山下通り)